

<特集「看護学教育の可能性」>

## 看護学教育の質保証とコアカリキュラム

關 戸 啓 子\*

京都府立医科大学大学院保健看護学研究科保健看護学専攻  
京都府立医科大学医学部看護学科

### Quality Assurance and Core Curriculum of Nursing Education

Keiko Sekido

*Graduate School of Nursing for Health Care Science, Kyoto Prefectural University of Medicine*  
*School of Nursing, Kyoto Prefectural University of Medicine*

#### 抄 録

看護系大学は急速に増加している。そのため、看護学教育の質保証が重要になってきている。質の保証に資するため看護学教育のモデル・コア・カリキュラムが策定された。看護学教育のモデル・コア・カリキュラムは、多様なニーズに応えるべく、学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の看護実践能力について、その修得のための具体的な学修目標を提示している。これによって、教育の質を担保した上で、各大学には特色ある独自のカリキュラムを構築することが求められている。

キーワード：看護学教育，モデル・コア・カリキュラム，質保証。

#### Abstract

Nursing college is rapidly increasing. Therefore, quality assurance of nursing education is becoming important. The model core curriculum of nursing education was formulated to contribute to guarantee of quality. In order to respond to diverse needs, the model core curriculum of nursing education presents concrete learning goals for acquiring essential nursing practical skills that students should acquire by the time of graduation. By doing this, it is required that each university develop its own unique curriculum with guaranteeing the quality of education.

**Key Words:** Nursing education, Model core curriculum, Quality assurance.

#### はじめに

看護師の養成は看護専門学校が主流を占めていたが、急速に大学での養成が進んでいる。平

成3年まで全国でわずか11校であった看護系大学は、平成4年度以降増加し始め、最近では年に10校以上のペースで増加し、平成30年には263校を数えるまでになっている。全国の大学に

平成30年11月13日受付 平成30年11月13日受理

\*連絡先 關戸啓子 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465番地  
ksekido@koto.kpu-m.ac.jp

において、ほぼ3校に1校は看護系学科がある計算になる。これに伴い、看護教員や臨地実習施設の不足、学生の学力低下が問題<sup>1)</sup>となっている。わが国の看護師養成教育は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則により、ある程度の水準は維持されているが、教育機関の目的により、カリキュラムや教育資源、教育環境整備の程度に相違や格差が生じている<sup>2)</sup>といわれる。一方で、医療は日々高度に進歩し、社会の要請に応えられる質の高い看護師養成が求められている。そのため、看護教育においては、教育水準の維持向上が課題であり、質の保証をどのように行うのが模索されている。このほど、質保証に資するため文部科学省が有識者会議を設置し、看護学教育のモデル・コア・カリキュラムを策定・公表したので、これについて説明し、看護学教育の展望について考察する。

### 医・歯・薬学教育のモデル・ コア・カリキュラムについて

医学・歯学・薬学教育においては、すでにモデル・コア・カリキュラムは作成されている。

医学教育モデル・コア・カリキュラム<sup>3)</sup>は学生が卒業時までに身に付けておくべき、必須の実践的診療能力に関する到達目標を明確化した、医学教育の指針であり、平成13年3月に策定され、平成19年12月、平成23年3月、平成29年3月と改訂されている。平成28年度改訂版は、「A 医師として求められる基本的な資質・能力」「B 社会と医学・医療」「C 医学一般」「D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」「E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療」「F 診療の基本」「G 臨床実習」という大項目で項目立てされており、小項目ごとに「ねらい」と「学修目標」が示されている。

歯学教育モデル・コア・カリキュラム<sup>4)</sup>は、医学教育モデル・コア・カリキュラムと同時期に策定・改訂され、卒業時までに身に付けておくべき、必須の実践的診療能力に関する到達目標を明確化していることも医学教育と同様である。平成28年度改訂版は、「A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力」「B 社会と歯

学」「C 生命科学」「D 歯科医療機器（歯科材料・器械）」「E 臨床歯学」「F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））」「G 臨床実習」という大項目で項目立てされており、小項目ごとに「ねらい」と「学修目標」が示されている。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム<sup>5)</sup>は、6年制学部・学科としての教育内容を精選し、卒業時までに学生が身に付けておくべき必須の能力（知識・技能・態度）の到達目標を分かりやすく提示したものであり、平成14年8月に策定、平成25年12月に改訂された。「A 基本事項」「B 薬学と社会」「C 薬学基礎」「D 衛生薬学」「E 医療薬学」「F 薬学臨床」「G 薬学研究」という大項目で項目立てされており、小項目ごとに「一般目標」と「到達目標」が示されている。

### 看護学教育のモデル・ コア・カリキュラムについて

看護学教育のモデル・コア・カリキュラム<sup>6)</sup>は、多様なニーズに応えるべく、学生が卒業時までに身に付けておくべき必須の看護実践能力について、その修得のための具体的な学修目標を提示するために、平成29年10月公表された。「A 看護系人材として求められる基本的な資質・能力」「B 社会と看護学」「C 看護の対象理解に必要な基本的知識」「D 看護実践の基本となる専門基礎知識」「E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識」「F 臨地実習」「G 看護学研究」という大項目で項目立てされており、小項目ごとに「ねらい」と「学修目標」が示されている。将来的には、医療系人材養成として、同時改訂や一部共有化も見据えられており、先行する医・歯・薬学教育のモデル・コア・カリキュラムとの整合性をはかりつつ項目立てがなされた。

「A 看護系人材として求められる基本的な資質・能力」は、『1.プロフェッショナルリズム』『2.看護学の知識と看護実践』『3.根拠に基づいた課題対応能力』『4.コミュニケーション能力』『5.保健・医療・福祉における協働』『6.ケアの質と安全の管理』『7.社会から求められる看護の役割の

拡大』『8.科学的探究』『9.生涯にわたって研鑽し続ける姿勢』で構成されている。このA項目の資質・能力を念頭に置きながら、B～G項目では、看護実践能力の修得に必要な学修目標が列挙されている。各看護系大学は、モデル・コア・カリキュラムにそってカリキュラムを見なおし、平成31年4月からモデル・コア・カリキュラムを踏まえたカリキュラム開始が望ましいとの方向性が示された。

看護学教育の質保証のための基準は、看護学教育のモデル・コア・カリキュラム以外にも存在している。代表的なものとして、日本看護系大学協議会が平成22年に作成した「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」がある。これは平成30年に改訂され、現在は「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」という名称で使用されている。この「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」に示されたコアコンピテンシーは、看護学教育のモデル・コア・カリキュラムの「A 看護系人材として求められる基本的な資質・能力」に内包されている。また、別の基準として、平成29年には、日本学術会議健康・生活科学委員会 看護学分科会が「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 看護学分野」を作成している。これら、3基準を活用して看護教育の質保証を行うことが求められている。

看護学教育のモデル・コア・カリキュラム<sup>④</sup>の考え方として、本モデル・コア・カリキュラム策定に当たっては、各大学における学修時間数の3分の2程度で履修可能となるよう精選しており、各大学においては、本モデル・コア・カリキュラムが提示する学修目標を包含するとともに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の内容を充足しつつ、特色ある独自のカリキュラムを構築することが期待される、と述べられている。さらに、大学においては、平成29年4月に卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの3つの方針（ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシー）を一貫性あるものとして策定し、公表すること

が義務付けられており、カリキュラム策定に当たっては、これらとの整合性を図ることが必要である、とも述べられている。すなわち、モデル・コア・カリキュラムによって質保証をしたのちに、大学の特色を出し、3つの方針を明確に示すことが重要であると考えられる。

## 本学科の取り組みについて

本学科においても、看護学教育のモデル・コア・カリキュラムを踏まえてカリキュラムの見直し・確認を行った。

FD (Faculty Development) を開催し、看護学教育のモデル・コア・カリキュラムへの理解を深め、領域ごとに、担当科目の授業内容が、モデル・コア・カリキュラムで示された学修目標のどこに合致するのか、確認を行った。それを持ち寄り、本学科として教育内容に不足している部分がないか確認した。その結果、災害看護に関する1科目について開講学年を変更する必要があることがわかった。その他、すべてモデル・コア・カリキュラムを満たしていることが確認された。

これに引き続き、現在は、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーが一貫していることを示す図表の作成について、検討しているところである。まだ、暫定であるが、大学の理念とディプロマ・ポリシーの関連（図1）、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーの関係（図2）、カリキュラムマップ（図3）について作成途上であり、カリキュラムとカリキュラム・ポリシーの関連を示すマトリックス表を作成中である。そして、3ポリシーに基づいて、PDCAサイクル（Plan⇒Do⇒Check⇒Action）を働かせることで大学教育の改善がなされていくよう、引き続きFD等の実施をととして質保証に努めることにしている。

## 看護学教育の展望

看護学教育においては、モデル・コア・カリキュラムも策定され、さらには平成30年10月一般財団法人日本看護学教育評価機構も設立され、第三者機関による分野別評価も始まろうとして

## 大学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」

### 【大学の目的】

医学及び看護学に関する知識及び技能を授け、有能な医師、看護師、保健師及び助産師となるのに必要な教育を施すとともに、医学及び看護学の深奥をきわめて、文化の進展と人類の福祉とに寄与することをもって目的とする。

### 【看護学科の教育理念】

看護学科は、生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性と創造性を培い、高度の専門知識や技術など看護専門職としての総合的な能力を有し、看護学の発展及び保健医療と福祉の向上に貢献できる人材を育成するものとする。

### ディプロマ・ポリシー

豊かな人間性を備え、全人的な看護を展開できること

科学的思考に基づいた判断能力を育て、主体的に看護が実践できること

保健・医療・福祉の連携を図り、看護が実践できること

国際的な視野で健康問題を捉えて看護を考えられること

図1 大学の理念とディプロマ・ポリシーの関連（暫定版）  
（平成30年度第2回京都府立医科大学看護学科FD資料）

### ディプロマ・ポリシー

### カリキュラム・ポリシー

### アドミッション・ポリシー

豊かな人間性を備え、全人的な看護を展開できること

科学的思考に基づいた判断能力を育て、主体的に看護が実践できること

保健・医療・福祉の連携を図り、看護が実践できること

国際的な視野で健康問題を捉えて看護を考えられること

生命及び人間の尊厳の理解に基づく高い倫理観の形成、人間性及び環境への深い洞察力の育成

看護の専門職として必要な知識・技術・態度とあらゆる看護の場において主体的に看護が実践できる能力の育成

科学的思考に基づいた判断力、問題解決能力の育成

地域医療やライフステージなど様々な看護ニーズに応えることのできる、保健・医療・福祉との連携・調整を図る能力の育成

国際理解とコミュニケーション能力を基にして、グローバルな視野で健康問題を理解し、看護活動ができる能力の育成

社会の変化に対応して看護を発展させ、自ら課題を探求し、研究していくことができる基礎的能力の育成

心豊かに人と接することができる人

幅広い基礎学力を持ち、自ら考え学ぶ力のある人

看護への関心があり、看護職として広く活躍したい人

生涯看護活動に関わり、社会に貢献する意志のある人

図2 ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーの関係（暫定版）  
（平成30年度第1回京都府立医科大学看護学科FD資料）

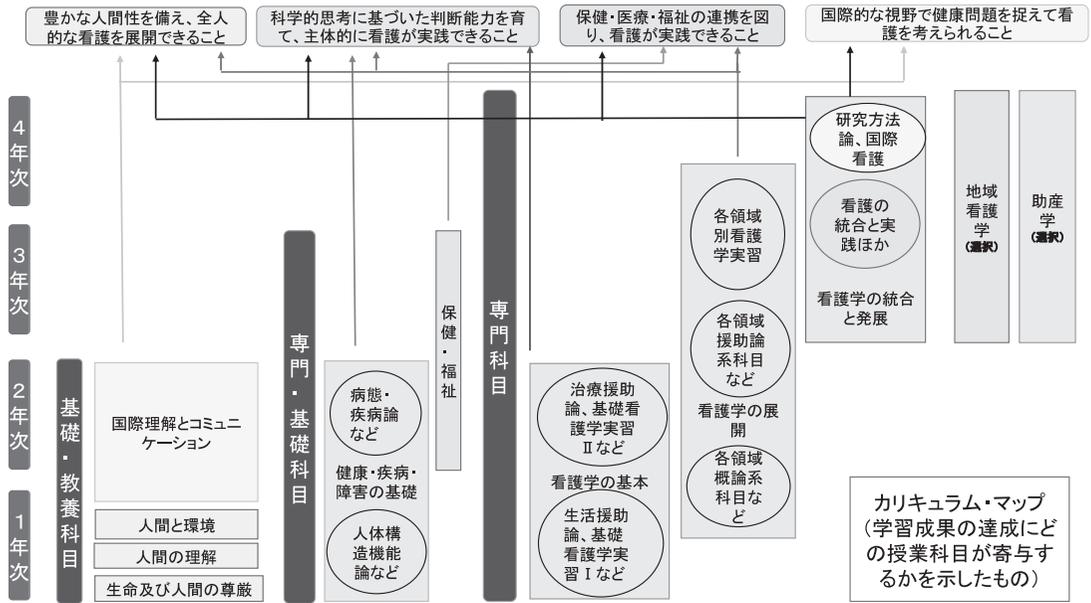


図3 カリキュラムマップ（暫定版）  
（平成30年度第1回京都府立医科大学看護学科FD資料）

いる。まさに、看護学教育の質保証に向けて大きな過渡期を迎えているといえよう。看護系大学が増える中で、学生から選ばれる大学であるためには、教育の質が保証されているだけではなく、それに加えた大学独自の魅力的なカリキュラムが必要ではないかと考える。看護学教育のモデル・コア・カリキュラム<sup>6)</sup>においても、特色ある独自のカリキュラムを構築することが期待されると述べられている。しかし、看護系大学は看護師養成所でもあるため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則にも従わなければならない。大学設置基準による卒業に必要な単位数は124単位以上で、その中に、保健師助産

師看護師学校養成所指定規則によって、教養基礎の内容が13単位、看護専門分野の内容が84単位含まれていなければならない。看護系大学の独自性を出すことができる単位数は限られている。看護学教育は、科学の進歩や社会における課題にどのように向き合い貢献するのか、また、そのための教育をどう実践するかなど、未来の看護に向けた取り組みが求められる<sup>7)</sup>現状もある。いかに各看護系大学が将来をみすえて、質を担保しながら特徴ある教育を打ち出していけるかが、望まれているといえよう。

開示すべき潜在的利益相反状態はない。

## 文 献

- 1) 板垣恵子. 看護教育の現状と課題. 東北文化学園大看紀 2015; 4: 1-9.
- 2) 舟島なをみ. 看護学教育の現状と展望. 日本医学教育学会編. 医学教育別冊『医学教育白書 2010年版』, 東京: 篠原出版新社 2010; 131-134.
- 3) 文部科学省ホームページ「医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成28年度改訂版), 歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成28年度改訂版) の公表について」  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/)

toushin/\_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961\_01.pdf

- 4) 文部科学省ホームページ「医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版），歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）の公表について」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/032-2/gijiroku/\\_icsFiles/afieldfile/2017/03/13/1382693\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/032-2/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/03/13/1382693_001.pdf)

- 5) 文部科学省ホームページ「薬学教育 2. 薬学教育モデル・コアカリキュラム」

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/02/12/1355030\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/02/12/1355030_01.pdf)

- 6) 文部科学省ホームページ「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～『学士課程においてコアとなる看護実践能力』の修得を目指した学修目標への策定について」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf)

- 7) 藤井千枝子. 看護教育学. 看と情報 2016; 23: 3-10.

## 著者プロフィール



### 關戸 啓子 Keiko Sekido

所属・職：京都府立医科大学医学部看護学科 基礎看護学 教授

略 歴：1980年 3月 徳島大学医学部栄養学科 卒業

1988年 3月 川崎医療短期大学第一看護科 卒業

1988年 4月 川崎医科大学附属病院

1995年 4月 川崎医療福祉大学

1999年 3月 佛教大学大学院教育学研究科修士課程修了

2002年 3月 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士後期課程単位取得後退学

2002年 4月 徳島大学

2012年 4月 神戸大学

2015年 10月～現職

専門分野：基礎看護学

- 主な業績：1. Kaori Tsutsumi, Keiko Sekido. Relationship of clinical nursing competence to nursing occupational experience in hospice/palliative care nurses in Japan. *Health*, **7**: 279-288, 2015.
2. Sayoko Uemura, Keiko Sekido, Tetsuya Tanioka. Characteristics of male family caregivers in Japan and their sense of care burden, capacity to deal with stress, and subjective sense of well-being. *Health*, **6**: 2444-2452, 2014.
3. 金子周平, 關戸啓子, 下村明子. ロールレタリングを用いた体験学習による看護学生の共感性の変容 - 想像活動の特徴と記述の多様性からの検討 -, *日本看護科学会誌*, **34**: 180-188, 2014.